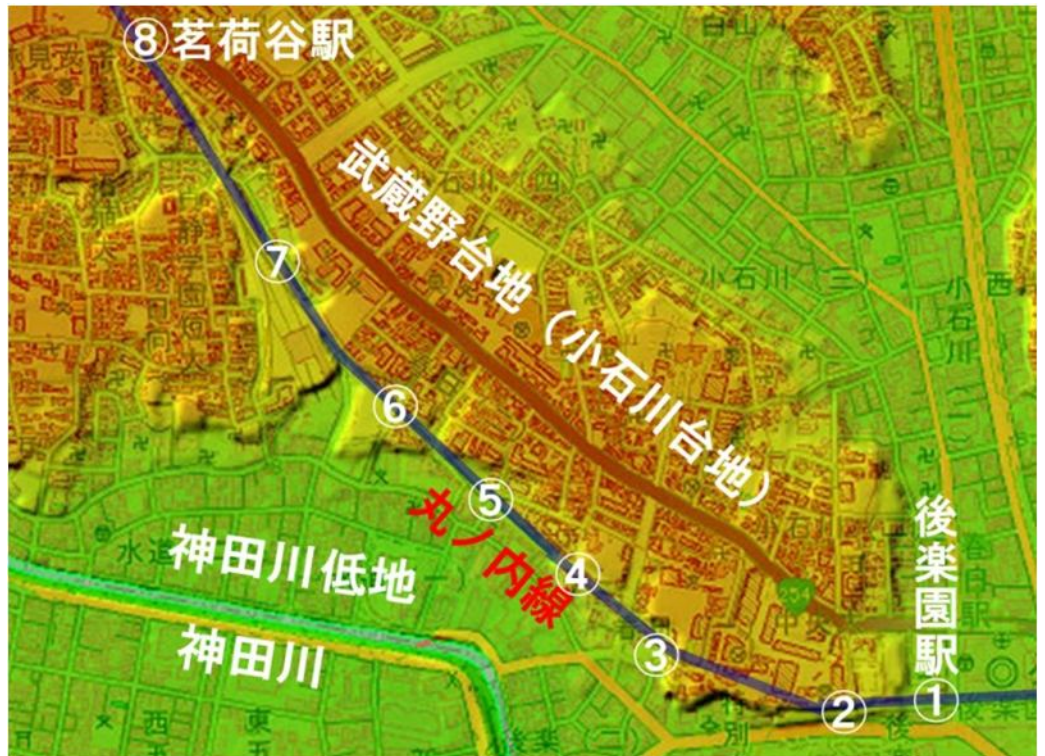


「後樂園・茗荷谷間 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

南北線や大江戸線など、比較的新しい地下鉄は、他の地下鉄や地下構造物を避けるために、地下奥深くに敷設されている。しかし、丸ノ内線や銀座線など、古い地下鉄は、地面から工事をして、地上スレスレを走っている。「四ツ谷」「お茶の水(神田川)」銀座線の「渋谷」など、土地の低い場所では、線路が地上に現れるのは、ご存じの通りである。

丸ノ内線が最も長く地上を走るのは、後樂園・茗荷谷間である。この間は、武蔵野台地の東端にあたる、小石川台地(舌状台地の一つ)の南の縁(段丘崖)に、線路が敷設されている。地下鉄の中からでも、注意して観察すると、その地形の様子がわかる。私は、後樂園を出た電車の最後部に乗って、後方車窓を撮影してみた。幸い、現在の丸ノ内線には、車掌さんが乗務していないので、後方視界は良好である。



をくぐる、珍しい都道である。しかし、西側(茗荷谷川)は、武蔵野台地の縁に、顔を突っ込んだような形になっている。



②後樂園駅を出発した電車は、すぐにトンネルに入る。武蔵野台地(小石川台地)の南端の「岬」に突っ込んだのだ。地下鉄のトンネルは、地下深くに故意に造ったものがほとんどだが、このトンネルは自然の地形に従って掘られた、真のトンネルである。トンネルを出ると、段丘崖が見えてくる。(つづく)



①後樂園駅。後樂園駅は東側(本郷三丁目側)は、小石川低地にはみ出している。白山通りは、地下鉄の下